



「カリキュラム・マネジメント」で 道徳授業の充実を!

千葉大学 教授 土田 雄一

カリキュラム・マネジメントとは?!

「カリキュラム・マネジメント」については、これまでも、教育課程(カリキュラム)の在り方を見直す側面から重視されてきました。「教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る」一連のPDCAサイクルを確立させ、発展させることを目指していたのです。これからの「カリキュラム・マネジメント」は、さらに「社会に開かれた教育課程」の実現を通じて子どもたちに必要な資質・能力を育成するという新しい学習指導要領等の理念を踏まえ、次の2つの側面を加えてとらえられています。

まず、各教科等の教育内容を相互の関係でとらえ、学校の教育目標を踏まえた「教科横断的な視点」で、教育の内容を

組織的に配列していくことです。

次に、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源、地域等の外部資源を活用しながら効果的に組み合わせることです。このように解説するとすごく難しいことや大変なことのよう感じます。しかし、そうではありません。これまで学校教育で取り組んできたことを「目的や意味を見直して関連づけて計画を立て、実施し、その効果を評価する」ものです。その計画や実施に際して「人・物・地域資源」を効果的に活用することですから、こちらも実際に学校で取り組まれています。

例えば、生活科の「昔の遊び」の単元で、地域の方に昔の遊びを教えていただいたり、地域の歴史等も教えていただいたりしたことは「カリキュラム・マネジメント」の一つです。

道徳教育におけるカリキュラム・マネジメント

道徳教育におけるカリキュラム・マネジメントも同様に、道徳教育の目指す目的を明確にし、学年ごとに各教科等や行事と道徳科を関連させて子どもたちを育てていこうとする考え方です。

例えば、5年生では多くの学校で「宿泊学習」を計画しているでしょう。その準備は学級活動だけでなく、訪問する地域のことを調べたり(社会科)、しおりを作成したり(国語科)、キャンプファイヤー等で歌う歌の練習をしたり(音楽科)するのではないのでしょうか。飯ごう炊さんをするとしたら家庭科とつながっていますね。それらに、人的資源や物的資源、地域資源を活用しようとするものですし、さらに、道徳科を核としてそのプランを見直してはいかがでしょうか。

光文書院の教科書では、前述の5年生の宿泊学習に関連させた、「まかせてみようよ」(ウォークラリー)と「みんなの劇」(学芸会)を重点主題「相互理解、寛容」として扱っています。子どもたちの自主的活動をする際に必要な道徳的内容です。ちなみにこの2つの教材は登場人物もつながっています。「まかせてみようよ」の登場人物が、さらに「みんなの劇」でどのように成長していくのか、自分たちの体験学習と重ねて考えていくことも効果的な学習となるでしょう。

この教材は、教科書上では5~6月に配当されていますが、学校によっては宿泊学習が秋のところもあるでしょう。そのような場合に、実施時期をずらすこともカリキュラム・マネジメントであり、次年度に向けて、年間計画を修正することがPDCAサイクルの具現化なのです。

新しいものを創作するのではなく、これまで実施してきた学校・学年行事や体験活動の道徳的意味を見直し、関連する教科等を組み合わせるとともに道徳科を核として深めていくという考え方です。

さらにこの「カリキュラム・マネジメント」の考え方は、校長だけでなくすべての教職員がその必要性を理解し、教育課程全体を意識しながら取り組むことがポイントです。そして、「社会に開かれた教育課程」の観点からは、学校内だけではなく、保護者や地域の人々等を巻き込んだ「カリキュラム・マネジメント」を確立していくことも大切です。道徳教育における理解と協力を求める場ともなります。

道徳教育の目的(道徳性の育成)を達成するためには、1時間の道徳科の授業だけでは難しいことは言うまでもありません。各学年の発達段階や学校・地域の実態に応じて、各教科の学習内容や行事・体験活動と関連させてこそ、道徳科での学びが深まります。

道徳科を核としたカリキュラム・マネジメント例

鈴木悠也先生(元木更津市立八幡台小学校)は、平成29年度に「仲間ステップアッププログラム」と題して、道徳科を核とした宿泊学習、学芸会と総合的な学習、特別活動等を組み合わせたプログラムを実施しました(表A)。「仲間との協力」意識を高めるため、5年生の宿泊学習の前に「まかせてみようよ」を実施してから宿泊学習を行った結果、事前の「仲間との協力」に対する自己評価が学年全体で57.0%だったのに対して、宿泊学習終了後には80.7%に高まり、さらに続いて実施した学芸会のあつて

は、92.2%へと上昇しています(表B)。それは、宿泊学習や学芸会の体験による道徳的効果とも言えますが、関連する内容を取り入れた道徳授業を効果的に実施した成果でもあります。体験と道徳授業での学びが結びついた結果、子どもたちの意識が高まったと言えるでしょう。

同様に「合唱祭(音楽発表会)」等と結びつけた実践例においても、教材の組み合わせと子どもの振り返り、そして、「教師の声かけ」「ワークシートへのコメント」等によって意識が高まっています。「教師の声かけ」や「コメント」等も大切な形成的評価です。カリキュラム・マネジメントによる実践でも大切にしたいですね。

表A

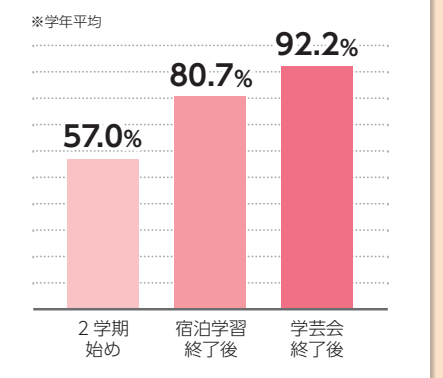
『仲間ステップアッププログラム』
【単元構成】

段階	時数	月日	教科・領域	主題名【内容項目】☆教材名
導入	①	9月1~2週	特別活動(学級活動)	『仲間ステップアッププログラム』について(オリエンテーション)
	②	9月1~2週	特別活動(学級活動)	人間関係づくり
ステップⅠ	③	9月2週	道徳科	みんなのことを考えて【A-(1)善悪の判断、自律、自由と責任 B-(7)親切、思いやり】☆「移動教室の夜」(学研)
	④⑤	9月2週	総合的な学習の時間	亀山自然調査隊(オリエンテーション・自然調査計画作り・役割分担)
	⑥	9月3週	道徳科	仲間を信じて【B-(10)友情、信頼】☆「まかせてみようよ」(光文書院)
	⑦⑧	9月3週	総合的な学習の時間	亀山自然調査隊(各班の自然調査計画の発表)
	⑨	9月19日	特別活動(学級活動)	出発式
	⑩~⑭	9月20,21日	特別活動(学校行事)等	宿泊学習
	⑮	9月23日	特別活動(学級活動)	宿泊学習を終えての振り返り
ステップⅡ	⑯	9月5週	道徳科	広い心をもって【B-(11)相互理解、寛容】☆「学級新聞作り」(光文書院)
	⑰⑱	9月5週	総合的な学習の時間	亀山の自然のすばらしさを伝えよう(伝える手段、内容を考える)
	⑳	10月1週	道徳科	みんなで創る【B-(10)友情、信頼】☆「みんなの劇」(光文書院)
	㉑㉒	10月1週	総合的な学習の時間	亀山の自然のすばらしさを伝えよう(グループ練習・グループ同士の評価)
	㉓㉔	10月2週	総合的な学習の時間	亀山の自然のすばらしさを伝えよう(全体練習)
	㉕㉖	10月12,13日	特別活動(学校行事)	ひばり学芸発表会(12日児童、13日保護者)
まとめ	④④	10月3週	特別活動(学級活動)	プログラム全体の振り返り

〇留意点

- ・単元の導入である「人間関係づくり」の学習では、グループで行うエクササイズを通して、仲間と協力することの大切さや友達の良いところに気づいていく態度を養っていく。
- ・道徳科の授業では、教材の中における問題点や主人公の葛藤場面を明確にした問題解決的な学習、自分に置き換えて考える自我関与等を取り入れていく。
- ・行事と行事の間では、自分自身の成長を振り返るとともに、学んだことを生かしたり、自分自身の今後の課題を明確にしたりしながら、次の活動に意識をつなげていく。
- ・表の「月日」のところ〇週となっているのは、学年全体でプログラムを行っているため、クラスによって実施日が異なるためである。

表B 仲間との協力に対する自己評価の変容



【児童が実際に記入した振り返りシート】

〇ひばり学芸発表会までの活動(学芸・道徳・総合)を通して、自分自身の変化をグラフに書きましよう。

①【仲間との協力】

②【仲間に対する思いやり】

理由

理由

〇ひばり学芸発表会までの活動(学芸・道徳・総合)を通して、自分自身の変化をグラフに書きましよう。

①【仲間との協力】

②【仲間に対する思いやり】

理由

理由